

高機能ケータイ用のフルブラウザを便利に使う jig ブラウザ徹底使いこなし術

これまでマニア向けと思われるケータイ用のフルブラウザが広まってきている。フルブラウザを標準搭載する端末や、インストールして利用できるアプリも増えた。なかでも、jig.jp が提供する jig ブラウザは、初のアプリタイプのフルブラウザということもあって、ダウンロード数は14万、利用者は1万8千人を越えるほどの人気だ。しかし jig ブラウザをただのウェブブラウザとしてだけ使っているのは、もったいない。jig ブラウザは頻繁にバージョンアップを重ねて、単なるブラウザとはいえない。

インターネット生活研究所

青山祐輔

jig ブラウザの詳しい機能の紹介に入る前に、あらかじめ行っておくべきことがある。それは jig ブラウザを待ち受けアプリとして設定しておくことだ。待ち受けアプリとして常駐させておくと、通常のメニューから起動させると数十秒掛かってしまうところを、ワンキー操作で待

ち受け状態から jig ブラウザを呼び出せるのだ。

ケータイでフルブラウザを使えるメリットとは、いつでもどこからでも手軽に PC 向けウェブサイトが見られるということに尽きる。それなのにブラウザを立ち上げるだけで数十秒も掛かってしまっ

ては、そのメリットも半減してしまう。どうせ使うならなら、最初のブラウザを立ち上げるところから軽快に行きたい。

RSS リーダーで ニュースを読む

ウェブでの情報収集に必須のツールとなりつつある RSS リーダー。記事のヘッドラインを読み込み、興味を持った記事はページに移動して読める。新聞社などが運営するケータイ用のニュースサイトの多くが有料のサービスだが、PC用のウェブサイトならたいてい無料だ。それに RSS を使えばデータ量の大きなトップページを経由せず済む。

ケータイで POP メールを読む

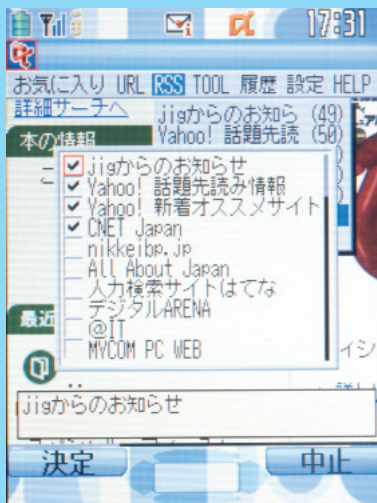
最新バージョンで追加されたのがメーラーだ。会社やプロバイダーなどの POP3 サーバーにアクセスして、ケータイでメールを読めるようになった。

会社やプロバイダー宛てのメールを、ケータイのアドレスに転送して読んでいる人も多いだろう。しかし、ただメールを読むだけではなく、そこからさらにリンク先の情報を得たり、必要なら返事を出したりといったことが、ケータイだけでできるのだ。

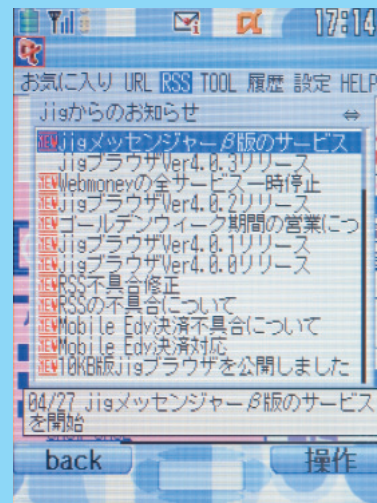
検索機能を使いこなし

jig ブラウザの検索が充実している。「TOOL」メニューには Google だけでなく、アマゾンの商品検索、国語辞書や乗り換え案内など、多くの検索サービスが登録済みだ。

RSS リーダー



RSS を登録するには、メニューから[RSS] [チャンネル選択]を選び、あらかじめ登録されているサイトから読みたいものにチェックを付ける。読み込みの間隔も変更可能だ。



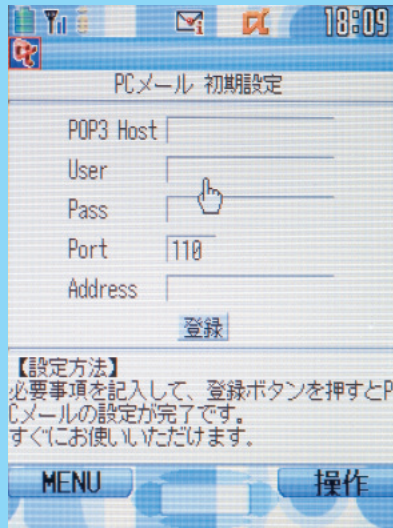
登録したサイトはメニューの[RSS]にサイト名が表示されるので、選択すれば見出しが一覧表示される。最新バージョンからは、既定のチャンネル以外にも3つまで好きなRSSを登録できる。

検索機能の中でももっともユニークなのが、「バーコード検索」だろう。カメラで書籍のバーコードを認識させると、オンライン書店の検索を利用して該当する書籍のデータが表示される。ただし書店の店頭でこれを行うと、デジタル万引きをしているようにしか見えないので、堂々とするのはおすすめしない。

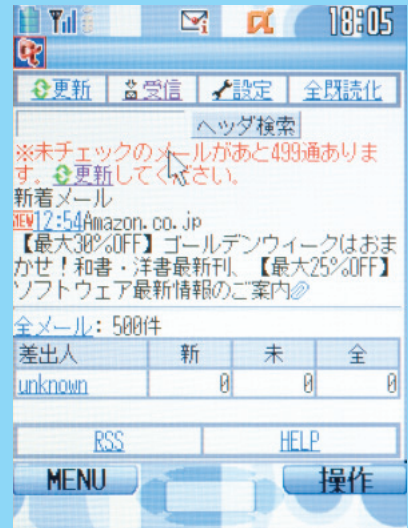
隠し機能でゲームもできる

実は、jig ブラウザにはメニューには載っていない機能がある。カーソルキーの右を押しながら、「2」キーを押してみよう。どこかで見たことがあるような画面が出てくる。実は jig ブラウザには「テトリス」や「ぷよぷよ」に似ている、いわゆる「落ちゲー」と呼ばれるゲームが搭

メーラー

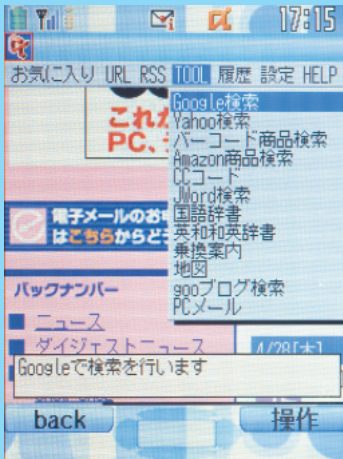


メニューの[TOOL] [PCメール]を選ぶと、POP3 サーバーなどの設定メニューが表示される。いくつか試してみたところ、POP3 サーバーへの接続に暗号化が必要なものはエラーとなってしまった。



メーラーのメイン画面。最新の5通までは差出人と件名、本文の一部が表示される。それ以外のメールは差出人ごとに件数がまとめられて表示される。メールの一覧はRSSとしてRSSリーダーに登録できる。

検索機能

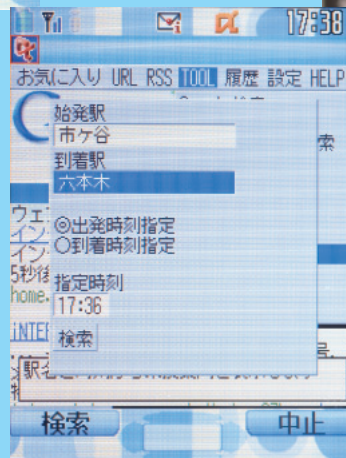


[TOOL]メニューには、さまざまな検索エンジン/ツールが並んでいる。エンジン/ツールを選ぶと、それぞれのサイトに移動せず、jig ブラウザの入力フォームが立ち上がり、そこから検索結果のページが直接表示される。

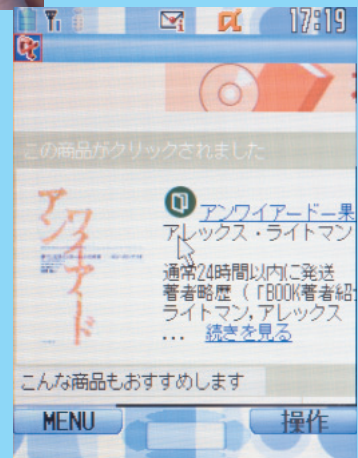


ケータイならではの検索が [バーコード商品検索] だ。ほぼすべてのケータイがカメラを搭載しているからこそこの機能だ。起動して、バーコードを画面にフォーカスさせるだけで、自動的に認識してアマゾンで検索する。

[TOOL]から [乗換案内] を選んだときの入力フォーム。それぞれの機能には数字キーをショートカットとして割り当てられている。したがって、多くの機種では待ち受け状態から2回キーを押すだけで、検索フォームにアクセスできる。



書籍のISBNバーコードで検索すると、詳細ページに直接移動する。出版社などによる内容紹介や読者レビューが読めるし、古書店ならばマーケットプレイスの値段を確認してどちらが安いか確認できる。ちょっと怪しくて便利な使い方だ。



載されているのだ。

また、「右+0」でブラウザのアップデートメニューが立ち上がる。隠し機能というほどではないが覚えておくと便利

だ。この他にもいくつか隠し機能が存在しており、いろいろと試してみるのもjigブラウザの楽しみ方の1つだ。

フルブラウザの目指す方向

ケータイのオープン化や回線の高速化に伴い、フルブラウザの搭載は一層進むだろう。しかし、ケータイからパソコン用のウェブサイトが見られるというだけでは大きなメリットはない。パソコンに比べれば画面は小さく、入力デバイスの自由度も低いし、回線速度も劣る。なにより、パソコンならば自由に好きなソフトをインストールして使えるし、ソフト間の連携も取れる。この差は大きい。

しかし、jigブラウザはさまざまな工夫を凝らすことで、パソコン向けのコンテンツやサービスをケータイでも利用しやすくしている。現在のケータイにはPCのような自由がないからこそ、こういった小回りのきくソフトが求められている。

隠し機能



ウェブページが重いときには[右+0]でゲームをしながら待とう。頃合いを見計らって[戻る]を押せば、ページが表示されているはずだ。ブラウザのアップデートも[上+0]で一発だ。

皆が使える「良い道具」を作りたい

jigブラウザを開発したjig.jpは、2003年に設立されたばかりの若い会社だ。その会社が、どうしてフルブラウザを開発したのか。社長の福野氏にうかがった。

jig.jpという会社自体を作ったのは、以前は他の会社でケータイ用のアプリ開発の下請けをしていたのですが、下請けということもあってお客さんからの要望に答えきれず、どうもやりきれない部分がありました。そこで、自分たちのブランドで「良い物」を作りたいと会社を設立しました。

私が思う「良い物」とは、誰もが使いたくなるものです。逆にいうと、ユーザーに「使えない」とは言われたいものを作りたい。いろいろアプリを使っていると必ず不満がありますよね。そういうものは、なくなるべきなんです。すべての

不満をなくすことはできないですけど、少しずつ改善して行って、できるだけ不満のないアプリケーションを提供したいと思っています。

最近、同世代(1977~8年生まれ)で活躍する起業家が増えてきたのは、ドットコムバブルがわーっと盛り上がってからしぼんだのを冷静に見ていたせいかもしれません。バブルが崩れた状態で、かえて収益モデルが作りやすくなったというのもあります。それに、最近はおもしろいことが少ないので、自分たちでおもしろいことをやれば目立えますから。

社名の由来は、アイルランドの民族舞



福野泰介
株式会社jig.jp 代表取締役社長

踊でから取りました。軽快で速いテンポのダンスらしいのですが、辞書で見つけたので実際には見たことがないです(笑)。それに、ジグ(治具)という日本語もあって、そっちの意味だと何かしらする道具なんですよ。それも気に入ったので、社名に採用しました。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp